

『CO₂の見える化』を実現するための カーボンフットプリント

玄地裕／田原聖隆／本下晶晴

m-motoshita@aist.go.jp

安全科学研究部門 社会とLCA研究グループ
つくば西

研究のポイント

- CO₂の見える化の実現による社会全体でのカーボンマネジメント
- サプライチェーン全体を通じたCO₂排出削減の最適化
- CSR活動である社会とのコミュニケーションツールとして活用

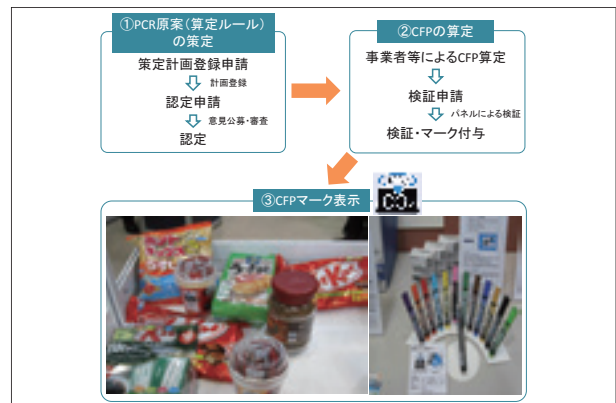
研究のねらい

製品・サービスの供給者である企業にとって、対象製品・サービスのサプライチェーン全体におけるCO₂排出量を算定するカーボンフットプリント（CFP）はサプライチェーンの中で効率的にCO₂削減できるポイントの洗い出しに役立ちます。需要者である消費者は、CFPを製品・サービスの選択基準の1つとして活用でき、自身の選択によるCO₂排出削減への貢献が具体的に見えます。製品・サービスの供給者・需要者の双方がCO₂排出量情報を共有することで、社会が一体となりCO₂排出削減に取り組むことができるツールとしてCFPが世界的にも注目されています。

研究内容

CFPを推進するためには、①算定方法に関する指針の策定、②CFP算定のためのデータベース構築、③消費者の受容性予測と改善策の検討、などが特に重要となります。

当部門では日本国内の算定基準策定に委員を派遣して指針作りの一翼を担っています。また、CFP算定のための資源/素材/部品などに関する網羅的なデータベースを作成しています。また、商品に表示されたCFP情報の消費者による活用意欲の分析や、普及に伴うCO₂削減効果の予測などをアンケート調査や計量経済分析手法を基に分析しています。

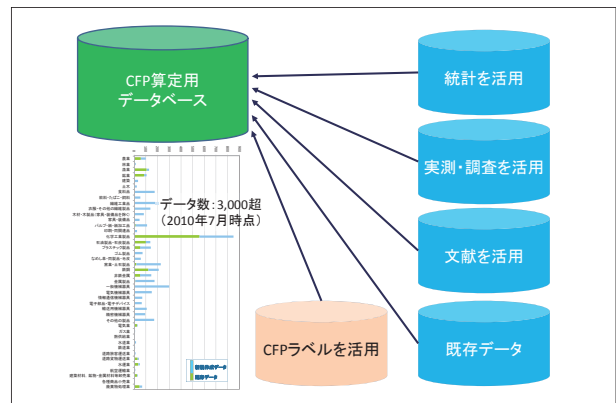


CFPマーク表示までの流れと表示商品の一例



世界各国におけるCFPの動向

(出典：カーボンフットプリント制度の在り方(指針) 参考資料P16～29)



CFP算定のためのデータベース

